令和 5 年度 学 校 自 己 評 価 表（最終評価）

専門学校　倉敷ビューティーカレッジ

Ⅰ 目指す学校像	小土井学園の理念「尽くす真心」のもと、地域美容の意義を理解し、美容業界に貢献できる学生を育成する学校を目指す。 (1)目標を明確化し、充実した学校生活を提供できる学校を目指す。 (2)地域社会との関係を強化し、地域社会に貢献できる人材を育成する。 (3)美容技術者として、お客様に喜ばれる戦力を備えた学生を育成する。	Ⅱ 中期目標	(1)美容室オーナーが雇用したくなる基礎技術力・人間力を備えた学生を養成する。 (2)「ほめて伸ばす」指導をベースに学生の意欲を引き出し、自信を付ける指導を実践する。 (3)他校との差別化を図り、本校の特色を前面に出し、定員の充足を目指す。	Ⅲ 重点目標	(1)最重点業務－学生募集 美容科学年２クラス (2)指導の重点　①「ほめ美」の実践 ②仕事に直結する４つの指導 (3) 独自の高品質カリキュラムの確立 (4)就職活動の充実

評価項目	具体的項目	現　　状	具体的目標	具体的方策	経過・達成状況	評　価	改善方策
1 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・業界関係・保護者等に周知されているか。	年度当初に教職員・学生に具体的な実践目標を配布している。また学生便覧を配布し説明を行っている。	・教育目標等の徹底を図る。 ・学校生活全般で意識させる。 ・関係業界や保護者に周知する。	・教室掲示を継続する。 ・年２回の学生に対するアンケートの実施を継続し、その結果を学生に返して周知する。 ・保護者会やＫＢＣ新聞等で周知を図る。	・大体周知はされているが、個人差がある。 ・学生、教職員アンケートは昨年度より評価が上がっている。	A	学生のオリエンテーション、保保護者説明会、企業ガイダンス等の機会を使い、周知を推進する。
2 学校運営	目的等に沿った学校運営・事業計画が策定されているか。	運営方針・事業計画は策定されているが、教職員の共通実践には至っていない。	・教員会議等で教職員の学校運営等の意識の高揚を図る。 ・非常勤講師への周知と共通理解を図る。	・教員会議の議題に上げて周知を図り、共通実践ができるようにする。 ・年度当初の非常勤会議で協力をお願いする。	・学校運営への意識は向上しているが、個人差がある。 ・ホームページの「お知らせ欄」や「KBCニュース」の更新をしっかりして、学校の活動を発信している。	A	学校の教育活動をホームページやインスタグラムで今以上に発信していく。
	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	本校ホームページにより情報公開を行っている。	・頻繁な更新を心掛ける。	・担当者は勿論、その他の教職員も頻繁にチェックし、常に最新の情報となるようにする。			
3 教育活動	美容業界の企業・団体との連携によりカリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	１０月の教育課程編成委員会でご提言をいただき、３月の委員会で決定。次年度に向けてのご意見をいただいている。	・教育課程編成委員会のご意見をしっかり反映させる。	・分かりやすい説明を心掛ける。 ・委員の方々が発言しやすい雰囲気づくりを心掛ける。	・昨年度までに委員会等でいただいた意見を取り入れて実施している。 ・各種検定の合格率も向上している。	B	年間計画を見直し、授業時間の確保と教育活動の効率化を図り、実習の成果やコンクール等の成果を上げていく。
	資格取得等に関する指導体制・カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	最重要課題は美容師国家試験である。そのための学校体制は整っている。他の資格取得体制もある。	・美容師国家試験合格１００％を目指す。 ・各種検定の合格を目指す。	・担任は勿論、全教職員で積極的に受験するように勧める。			
4 学修成果	就職率の向上に対する方策が図られているか。	毎年ほぼ 100%の就職率である。後援会サロンをはじめ計画的に就職ガイダンスを実施している。	・現状維持	・日頃より、就職に対する意識を持たせる指導を心掛け、個別面談を実施する。	・美容科の就職は岡山県 24 名、広島県 6 名、東京都２名、兵庫県１名、京都府１名、埼玉県１名、香川県１名であった。 ・卒業は 44 名で就職希望は 40 名であった。 ・ビューティー専科への進学が１名。	B	就職先の選定等は後援会サロンの協力もいただきながら充実させる。また、家庭との連携を図り、中途での進路変更を防ぎ、学習の深化を目指す。
	退学率の低減策が図られているか。	学生との面談は年３回定期的に実施しており、随時保護者との連絡や面談をし、早め早めの対応に心掛けている。	・学生や保護者との面談を増やす。 また教員間の報連相を確実にする。	・退学者０を目指すために、担任だけでなく、管理職ともしっかり相談するようにする。			
5 学生支援	就職相談等、学生支援体制は整備されているか。	１年次３月に就職ガイダンスを実施し２年生になり、担任との個人面談で決定している。	・現状維持	・日頃より就職意識を持たせる指導を心掛ける。	・就職状況は順調である。 ・ビューティー専科の就職はコロナが落ち着き元に戻っている。 ・同窓会新聞を発行している。	B	奨学生度の理解をより一層図り、入学後の家庭環境の変化や経済状況の変化に対応できるよう心掛ける。
	学生に対する経済的な支援体制の整備及び保護者との連携は行われているか。	高等教育の修学支援新制度・日本学生支援機構の奨学金制度、小土井学園奨学制度等あり、教育ローン等も推奨している。	・個別対応の充実	・担任、事務、管理職が連携して対応する。			
	卒業生への支援体制はあるか。	同窓会費による国家試験対策サポート	・卒業生への周知とサポートの実施	・卒業生への連絡を確実にする。			
6 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	現状では十分対応できているが、２０年が経過し、施設・設備の改修が必要である。外壁塗装は完了した。	・創立２０周年が経過し　、必要な施設・設備は順次改修していく。 ・令和４年７月に新館完成。	・学生の意見や現場のサロンの意見を聞くように努める。	・トイレの改修なども年次計画で進めていく。	B	年次計画を立て、予算化して進めていく。
	防災に対する体制は整備されているか。	年に１回避難訓練を実施し、避難経路の確認や意識の向上を図っている。	・現状維持	・現状維持			
7 学生募集	学生募集は適正に行われているか。 学納金は妥当なものになっているか。	教員による高校訪問(７８校)を年間４回実施。高校ガイダンスに年間 60 校参加している。またメディア等での広告も各種掲載している。	・美容科 50 名以上　ビューティー専科と合わせて　合計 100 名以上の入学を目指す。	・常に学校の魅力づくりとその発信に心掛ける。 ・ガイダンスへの積極的参加。 ・オープンキャンパスの充実。	・令和３年度からは、美容師養成科は２コース体制（ヘアスタイリストコース・プロアイリストコース）になり、２クラス体制になっている。	B	常に先を見通した商品開発をし、選んでいただける学校創りや魅力づくりをしていく。
8 財務	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	良好な状態でコントロールされている。	・現状維持	・現状維持	・財務関係は良好な状態でコントロールされている。	A	無駄な経費削減と選択と集中により、より効果的な予算執行を図る。また財務諸表はホームページで公開をする。
	財務情報公開の体制整備はできているか。	毎年学校ホームページで公開している。	・現状維持	・現状維持			
9 法令等の順守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	「学校法人小土井学園　個人情報保護方針」の規定がある。	・現状維持	・現状維持	・昨年度と大きな変化はない。	A	アンケート調査を継続的に実施し、実態把握に努める。
	自己評価の実施・問題点の改善及び評価結果の公開を行っているか。	学生・教職員へのアンケートを実施し、それを基に自己評価を実施している。更にそれを学校関係者評価委員会に提示し、ご提言をいただいている。評価結果はホームページで公開している。	・現状維持	・現状維持			
10 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	学校施設を利用した社会貢献・地域貢献はほとんどできていない。	・どのような社会貢献ができるかを考える。	・現状維持	・続くコロナ禍の中で思うような活動ができていなかったのが現状である。	C	今後は地域のイベント等にも積極的に参加し、学生の社会貢献の意識向上を目指したい。
	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	・地域の一斉清掃には参加できた。 ・老人福祉施設を訪問してのネイルやメイクのボランティア活動は本年度コロナの関係ですべて中止になった。	・コロナ後のボランティアに積極的に参加する。 ・個人的なボランティアも奨励する。	・地域へのアピールを意識して行う。			

評価基準　A：十分達成【８０％以上】　B：概ね達成【６０％程度】　C：まだ不十分【４０％程度】　D：目標・方策の見直し【３０％以下】